

# 高松市観光振興計画(仮称)(素案)に対するパブリックコメント募集結果

## 1 意見提出件数 22件(4人)

## 2 頂いた御意見の要旨とそれに対する本市の考え方

※青字は対応施策・事業

番号	意見の概要	市の考え方
1	1 多くの観光客は自家用車以外で当市を訪問するが、五色台・峰山は市中心部から近隣にあるにも関わらず、バス等公共交通機関のサービスが全く無い。	1 五色台への交通手段は、現状では、自家用車かタクシーの利用となりますが、御指摘の点につきましては、五色台学運協議会を通じて検討してまいります。また、峰山につきましては、里山としての魅力発信に努めます。 <b>(観光資源の活用)</b>
	2 峰山の維持管理やイベント等の活用を促進して欲しい。	2 里山の保全・有効活用を支援するとともに、幅広い世代の憩いの場として里山の魅力を発信します。 <b>(観光資源の活用)</b>
	3 観光都市を目指すなら、観光スポットを巡る観光客向けのマイクロバスを運転するなどの努力が必要。	3 平成19年度から指定管理者が、ナイトバスツアーを運行したり、市としても屋島山上シャトルバスの運行を継続していますが、指定管理者との連携や高松観光プロモーション事業で着地型観光商品の拡充を図ります。 <b>(指定管理者との連携 ・高松観光プロモーション事業)</b>
2	1 内容が概要になりすぎ、具体的に何をしたいのかわかりづらい。想定するターゲットの分析がなく、それにより発信すべきキーワード、展開方法がいまい。	1 官民の計画を総花的に表現しているため、具体性の濃淡はありますが、重点施策を中心に、可能な限り具体的な表記に努めています。
	2 本市の観光資源は高水準にあるので、長いスパンでのビジョン作りをして、十分いかすことが必要。	2 観光を取り巻く環境の変化に耐えうる民間主導の持続可能な観光振興をコンセプトとしています。計画期間については、国の計画期間に合わせています。
3	1 旧市優先の姿勢について、新市民が納得いくように公平に取り扱って欲しい。	1 計画の策定段階から、合併6町を含む各エリアより、民間の立場で観光振興を実践する市民が参画しています。重点施策の中で、「塩江地域の観光振興」を始め、「産業コラボレーション事業の推進」、「まち歩き型観光の充実」ほかにおいて、合併地域の地場産業・観光資源を積極的に発信していきます。

番号	意見の概要	市の考え方
3	2 サンポートはそれ自身の魅力より、瀬戸内海という自然の魅力が大きく、観光資源とは成らない。	2 御提言のとおり瀬戸内海は大きな観光資源で、計画の中でも「瀬戸内海から見た高松の魅力づくり」を計画の重点施策の一つとしています。また、サンポート高松は、「港町」として発展してきた本市の顔であり、各観光地への周遊拠点として、特に、直島（ベネッセ）へのゲートウェイとして、アート・ハブ・シティー（芸術拠点都市）高松の重要な役割を担います。
	3 丸亀町ばかりでなく、新市の商店街支援も行わなければ不公平。	3 丸亀町商店街の活性化については、高松市中心市街地活性化計画の中で位置づけていますが、県・市の助成制度は、中央商店街には限っていません。
	4 観光とまちづくり、中心市街地活性化がごちゃ混ぜになっている。	4 「観光」「まちづくり」「中心市街地活性化」に共通する要素を抽出した表記に努めています。
	5 屋島観光の活性化が、高松観光の活性化とイコールと思う。	5 屋島山上の放置施設は、本市観光の現在の課題の一つであり、また源平屋島地域の観光振興は本市観光の活性化に重要な役割を果たすため、重点施策として位置づけています。 <b>（源平屋島地域の観光振興）</b>
	6 昭和の建築物を歴史遺産として重視すべき。	6 本市には優れた建築家による建築物が数多く存在するため、まち歩き型観光の中で歴史的建築物を巡るツアーも実施しており、今後更なる促進を図ります。 <b>（観光資源の活用）</b>
	7 玉藻城天守閣再建は難しいので、殿様の銅像、生駒公と松平公の銅像を設ける。	7 高松城は歴代藩主の居城であったため、城跡については、天守閣の復元に資するよう取り組んでいく中で、検討していきます。 <b>（既存観光地の活性化）</b>
	8 サイクリングツアーロードの策定 観光コース毎にカラーラインを引くなど、マップを見なくても最短道を示せば、観光客にも便利。	8 観光レンタサイクルの導入に当たり、モデルコースの策定とともに、利用促進およびおもてなしの向上の点からも、検討していきます。 <b>（自転車利用による観光振興の推進）</b>
	4	1 イメージや地域を絞り込み、市内を観光ゾーンと地域ゾーンに分ける。
2 リピーターを作るには、箱物ではなく、歴史・文化・風景に力を入れる。		2 本市は風光明媚な自然景観に富んでおり、数多くの歴史的・文化的資源にも恵まれているため、史跡や自然の風景の保全とともに、一層のPRを図ります。 <b>（観光資源の活用）</b>

番号	意見の概要	市の考え方
4	3 市と住民の二人三脚のプロデュース力で、人気観光地を目指す。	3 民間が日常の経済活動の中で、観光振興に果たす役割は大きいため、行政・民間・市民が一体となった「観光プロモーション体制」の構築を目指します。(行政・民間・市民の役割)
	4 路面電車の設置	4 環境対策の点からも、公共交通機関の利用促進を図る中で、次世代路面電車の導入について、先進事例を参考に検討していきます。 <b>(交通アクセス機能の充実)</b>
	5 多くの寺社のPR	5 本市には指定文化財である寺社にも恵まれているため、ホームページ等で積極的な情報発信に努めます。
	6 日帰り客はリピーター確率の高い客と位置づけ、昼食+αの開発をする。	6 食は観光に不可欠な要素であり、まち歩き型観光等において、本市ならではの昼食+αのコースを推進していきます。 <b>(観光資源の活用)</b>
	7 伝統工芸品をPRする。	7 香川漆器や高松張り子、提灯などの伝統工芸品についても、より身近に感じていただくために、まち歩き型観光を推進する中で、スポットライトをあて、PRに努めます。 <b>(観光資源の活用)</b>
	8 漁港の名物を絞る。(鎌倉のシラス丼等)	8 うどんに続くグルメとして、瀬戸内海の小魚の積極的なPRを図る中で、検討します。 <b>(グルメ観光の推進)</b>
	9 質の高いボランティア養成	9 多様化する観光客へのサービス向上において、ボランティアの養成は不可欠であり、リピーターの確保に努めます。 <b>(ボランティアガイドの養成)</b>